

平成29年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	観光客による区内観光施設等の平均立寄り地数									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	調査中				3.5					4.0
実績	調査中									

指標名	墨田区における来訪者の観光消費額推計									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	調査中				4,500					4,750
実績	調査中									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
平成25年度の事業開始以降、吾妻橋船着場の利用回数は増加している。今後も、施設を適切に維持管理するとともに、関係部局と観光舟運の活性化に取り組む。 平成28年度から、東京都が隅田川舟運社会実験を実施しており、平時の利用状況について検証を進めている。	H28	18,920
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	船着場の利用回数は増加傾向にあるが、管理経費も増加傾向にあるため、効率的な維持管理方法を模索する必要がある。

4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
船着場利用者が安全・快適に施設を利用できるよう適切に維持管理する必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
おしなり公園船着場の夜間開放を継続するとともに、利用状況等も踏まえ、施設管理業務の改善を進める。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	船着場維持管理事業	18,920	観光客が鉄道や道路に加えて区を訪れる手段に舟運を選び、船着場を使用することで区内の観光資源相互のアクセス性が向上する。これによって観光資源が連携するきっかけとなる。	9,800	↓	改善・見直し(効果測定)
				9,097		平成28年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

平成29年度 事務事業評価シート

施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	船着場維持管理事業					1		
事業概要	これまでの防災活動や公共の目的のみに使用を限定していた船着場を、条例に従って旅客船など一般に開放している。					主管課・係（担当）		
						都市整備課都市整備・河川担当 03-5608-6294		
施策への関連性	観光客が鉄道や道路に加えて区を訪れる手段に舟運を選び、船着場を使用することで区内の観光資源相互のアクセス性が向上する。これによって観光資源が連携するきっかけとなる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	平時の一般開放によって観光客を乗せた船の使用が確認できたことから区民ニーズはあると言える。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
本来船着場は災害時に速やかに使用できることが求められるため、区以外の管理運営は困難と考える。しかし、現在東京都で実施している隅田川舟運社会実験による他の船着場の状況にも注視し、平時の利用状況について民間の実施が可能か検証を進めていく。								
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	船着場使用回数（吾妻橋船着場）				単 位	回/年
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		10,000	37	目 標	7,000	7,000	7,000	7,000
				実績	4,649			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	7,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	船着場を使用する回数が観光客数を計る目安となる。 (算出根拠)：吾妻橋船着場使用回数 $3\text{回/時間} \times 13\text{時間/日} \times 365\text{日} \times 0.5$ （目標稼働率）＝7,118（H32まで） $3\text{回/時間} \times 13\text{時間/日} \times 365\text{日} \times 0.7$ （目標稼働率）＝9,965（H37まで）							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	区内を訪れる観光客数				単 位	千人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
10,000		37	目 標	9,800	9,800	9,800	9,800	
			実績	9,097				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		9,800	9,800	9,800	9,800	9,800	10,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
船着場の利用を促進することで、区内観光回遊性を向上し、楽しいまちを創生することを目的とするため、舟運活性化が観光客の増加の一翼を担うものである。（基本計画）								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	18,920							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕船着場の使用回数増加に伴い、管理経費も増加するが、使用料としての歳入も増加するため財政負担に変化は無い。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
発災時は区の実施が必須だが、平時の管理は仕組みが整えば民間が実施する余地はある。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率性 経済性	有効性 適格性
東京都の長期ビジョン等でも水辺の魅力を生かした東京の顔づくりとして水辺空間の新たなにぎわいの創出を掲げている。区の観光回遊性を向上させるためにも舟運を活用することは有効である。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率性 経済性	評価結果
		4	4	3	3
3 効率性・経済性		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
既存の船着場を平常時利用として活用するものであり、区条例により使用料を徴収している。効率的に効果が期待できる。					
中間・最終年度の講評	事業開始以降、吾妻橋船着場の利用回数は増加している。引き続き舟運の活性化を関係機関との緊密な調整により促進し、目標の達成に向けて区内観光回遊性の向上を目指していく。				
今後の方向性	船着場の利用を増加させるために船着場周辺の観光資源の掘り起こしや開発、舟運そのものの観光性の充実を促進し、多くの観光客を区内に誘導して楽しめるまちをつくる。				